

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 多人数講義(300人以上)の解消またはそれに替わる措置(院生の張り付け等)を導入する	→多人数講義科目数、多人数講義において張りつけた院生数	B	B	B	B	B
2. 総合政策学科及び国際政策学科におけるゼミ室の設置またはそれに代わる共同ゼミ室を設置する	→ゼミ室等設置状況または検討状況	D	D	C	C	B
3. 2012年度中に無線LANの敷設を終了する	→無線LANの敷設の有無	B	B	B	A	A
4. 2号館2階の研究室スペースの有効活用策を策定し、整備を行う	→有効活用策検討状況および整備状況	D	D	C	B	A
5. 教員に対して外部資金導入を奨励する	→外部資金の獲得件数	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 多人数講義あるいは大学院生による授業補佐については、主に学部FD・カリキュラム委員会が改善を図っている。とくに2013年度には学部のカリキュラムを大幅に改訂して、多人数講義等の解消を目指した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度での専任教員の授業担当授業時間は、2010～2011年度と比較すると改善されている。多人数講義については、2012年度で300人を越える履修者がいた科目が37だったのに対して、2013年度は28に減っているが、完全に解消するにはいたっていない。授業補佐・授業補佐は、大学院在籍者数が減ったため、数値的にはむしろ減少してしまった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度からのカリキュラム改正後の状況をもとに、2017年度に予定している次のカリキュラム改訂に向けて検討作業を始めたところである。そこで、多人数講義の解消や大学院生等による授業補佐制度の充実等も検討する予定である。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度は共同研究室等整備委員会によって、総合政策学科と国際政策学科のゼミ室問題とKSC II号館2階の研究室スペースの有効活用策と併せて、作業を進めた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年4月に、神戸三田キャンパスにAcademic Commonsが完成したため、KSC I号館に生じた空きスペースを、総合政策学科と国際政策学科の共同ゼミ室として整備をおこない、2013年度秋学期から供用を開始した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 両学科ともこれまでゼミ室を利用していなかったが、現在は、利用状況は必ずしも活発とは言えない。このため、何らかの施策が必要と思われる。なお、共同研究室等整備委員会は2013年度をもって解散しており、現在は学部長室委員会の管轄になっている。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部情報教育委員会等が無線LAN設置にむけて検討してきたが、2012年度より多くの教室などで無線LANの使用が可能になった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上述のように、総合政策学部の多くの教室で無線LANが使用でき、IT環境は大幅に改善された。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か なお、以前から有線LANが設置されていた教室には無線LANが使用できないなど、一部に不便な場所が残っている。</p> <p>その他</p>	☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2002年度以降、KSC II号館2階スペースの有効利用が課題であったが、共同研究室等整備委員会のイニシアチブのもとに、演習教室へ転換を計画・実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度に、KSC II号館の2階スペースの研究室について改装が完了して、演習教室として使用を開始した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か この課題については初期の目的を達成しており、これ以上の伸長策や改善策は必要ない。</p> <p>その他</p>	☆
目標5	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部長室委員会、教授会を通じて、教員に外部資金の導入を奨励している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は、新規・継続をあわせて文部省科学研究費補助金10件を獲得した(採択額1,720万円)。件数・額ともに2009年度以降はもっとも高い値である。しかしながら、申請率自体はまだ高いものではなく、一層の奨励が必要と思われる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度以降、定年による教員の世代交代が急速に進んでおり、若い世代の教員の増加にともない、科学研究費等の外部資金の取得は今後増加していくことを期待したい。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	14	13	13	10	5	他に、 (2005、2006、2007、2008年度) 契約助手1 (2009、2010年度) 契約助手2 (2011年度) 契約助手1 (2012、2013、2014年度) 契約助手2
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	7	9	9	9	8	
		授業補佐	人	53	49	63	88	33	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.6	13.3	11.2	10.1	11.4	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	11.3	10.8	11.2	11.0	11.6	
		講師	時間	8.3	9.3	9.0	9.8	8.4	
		助教	時間	—	—	—	—	10.0	